

みなさん、おはようございます。校長の松下です。

さて、今日は3学期の終業式です。今年度、これまでの終業式では、本校がみなさんに目指してほしいと掲げている**10の人物像**について話をしてきました。**1学期の終業式では、「挑戦する人」**について、そして**2学期の終業式では「振り返りができる人」**の話をしました。みなさん、覚えていますか？ 今日、目指す生徒像の中から一つみなさんに話をしたいと思います。みなさん、教室のホワイトボードにある目指す生徒像のマグネットを見てください。今回みなさんにお話しするのは、「**知識のある人**」です。

「知識のある人」、みなさん、どうでしょうか？ これは、**目指す生徒像の中で、ある意味一番ストレートな**というか、**一番分かりやすい人物像**かもしれません。その他の人物像は、一見分かりやすそうに見えても、考えようによっては色々な解釈が出来たり、少し哲学的な意味合いもあったりと、なかなか簡単にはその人物像を定義できないものが多いと思います。しかし、「知識のある人」は、色々なことをよく知っている人、幅広い知識を持っている人というようなとらえ方で、みなさんすぐに理解できるのではないのでしょうか。また、単に、「勉強ができる人」とか「頭がいい人」とはちょっと違うんだよな、というのも感覚的に分かる人も多いと思います。しかし、**目指す生徒像の「知識のある人」とは、みなさんがイメージするこの「色々なことをよく知っている人」のことで十分なのではないでしょうか。残念ながら、それだけでは不十分です。**人は何のために勉強をするのか？それは、究極的には、自分の頭で考え、自分の言葉で自分の意見を表明できるようになるためです。自分の頭で考えるためには、これまで人類が積み上げてきた様々な歴史や文化、科学的データや検証結果、哲学、思考法、芸術などを学ばねばなりません。こうした知識のインプットが無ければ、我々は自分の頭で物事を考えることなどできません。その知識のインプットは、豊富であればあるほど、思考力が高まる可能性も大きくなるのであり、みなさんが一生懸命勉強するのもここに理由があるわけです。そして、豊富な知識を身につけることは、思考力をみがくこと以外にも、客観的な視点を持つのに役立ち、世界を理解し、よりよく認識できるようにもなります。つまり、みなさんが生きている地域社会やグローバル社会が将来どうあってほしいかについて考えたり、その課題についても取り組んでいけるようになるわけです。まとめると、**みなさんが日々勉強して知識を蓄える目的は、「自分らしく生き抜く力を身につけ、未来社会の担い手となる」**ためです。実は、これは本校の教育理念のビジョンに掲げられているものです。「知識のある人」とは、このように、知識を身につけるだけでなく、その知識を活用して自らの思考力を高め、また、社会の様々な課題に意識を向けて、自らの役割を見出そうと取り組んでいる人のことです。

では、その知識をどのように身につけていけばいいのでしょうか？まず、当然ですが、日々の勉強ですね。学校で設定されている教科は、どれも学ぶ意義があり、学校の勉強にしっかり取り組むことで、みなさんのこれからの人生を支える思考力の大きな基礎が確立されます。私も自分で言うのも何ですが、みなさんに負けないくらい日々の勉強や受験勉強もやりましたが、今振り返って思うのは、そこで学んだ一つひとつの知識ももちろんですが、「学

び方を学んだ」ことが大きな財産だったと思います。私は、大学を卒業してからすでに計33年間の社会人人生を送ってきていますが、正直、中学高校や大学で学んだ知識だけでやっていけるほど、社会は甘くありません。つまり、学校を卒業しても、人は学び続けなければならないわけであり、人生百年時代、その重要性はより高まっています。そうした時に力を発揮するのが、「学び方を知っている」そして幾つになっても「学ぶ姿勢」を持ち合わせているということです。「知識のある人」の“知識”には、こうした「学び方」や「学ぶ姿勢」も含まれると思います。この「学び続ける姿勢」は、学生時代に一生懸命勉強に取り組んだ人でないと、決して身に付かないものだとは私は確信します。みなさん、一生懸命勉強してくださいね。

知識を身につけていく上で欠かせないものをもう一つ言います。それは「読書」です。12世紀のフランスの哲学者、ベルナール・ド・シャルトルという人が、次のような言葉を残しています。

『巨人の肩に乗っているから、遠くを見ることができる』

これは、過去の賢い人やその人たちが残した研究成果などを「巨人」にたとえ、その力を借りれば、私たちはより広く、より深く、より遠くまでこの世界を見ることができる、ということ述べた言葉です。実際、人が自らの人生で経験できること、学べることには限界があります。そうであれば、自分の“外”にも学びの対象を求めてみる。この世界には、先人が残してくれた膨大な資産があり、それを使わない手はない。プロイセンの名宰相ビスマルクは「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」とその本質を解き明かしました。せっかくだから、先人の経験と知恵を借りる。その「巨人」の肩に乗せてもらうことで、多くの知識を身につけることができるわけです。ネットの記事は情報量が広く浅いため、深い理解にはなりにくいのです。それに比べて本は1冊で1テーマです。必然的に深くまで知ることができます。知識を得るには、広く浅くではなく、狭く深く得る方が知識が深まります。**読書もみなさんの年代で習慣化することができれば、みなさんの人生を彩る知識を劇的に増加させることができます。校舎全体が図書館になっている本校のこの環境をぜひ活かし、多くの本に触れてもらいたいと思います。**

「知識のある人」、どうでしたか？ その人物像に対するイメージは持てましたでしょうか？ 学年の終わりを前に、みなさんにはぜひ今年度1年を見つめ直し、新たな学年での学びのスタートにつなげてほしい、そんな思いで今日の話しをしました。

それでは、春休みが明けて、4月の新年度始業式で、またみなさんの元気な顔を見られることを楽しみにしています。私の話は以上です。どうもありがとうございました。